



みんなの輝け

（社福）かがやけ福祉会ニュース No.172

編集 （社福）かがやけ福祉会 〒124-0021 葛飾区細田3-5-3
電話:03-5668-1146/FAX:03-5668-1147/電子メール:kagayake01@jcom.zaq.ne.jp
<http://kagayakefukushikai.or.jp/>



成人・還暦を祝う会ではコロナ禍の中でも、社会的距離を保ちみんなで楽しく過ごしています。お祝いの言葉が飛び交っていました。

表紙 : 成人・還暦を祝う会

2ページ: 長田うめ子理事長2022年度ご挨拶

3ページ: 成人・還暦を祝う会・かがやけ共同作業所「さをり織り復活！」

4ページ: 職員全体学習会／新人職員紹介／かがやけ募金報告／編集後記

激動の情勢の中で 未来にむかって

2022年度が始まり、2か月が過ぎ去ろうとしています。

2019年から猛威をふるっている新型コロナウイルスの感染症がなかなか収束へとむかわらない中、命と生活を守るために、今年度も感染の予防対策の強化を図りながら、事業継続、発展、そして誰もが暮らしやすい社会へと努力をしていかねければと思います。

昨年は、なかま、ご家族の念願であったフューチャール（介護サービス包括型グループホーム）がたちあがりしました。かがやけ福祉会としては6つめのグループホームです。1つめのグループホームから、22年の時が流れ、ご家族の年齢も高齢になり、それでも待っていたご家族が「ここまで待ってよかった」とほっとした顔でお話してくださいました。

フューチャールはフランス語で、未来へという意味です。フューチャールがたちあがり、生活しているなかまたちは、毎日ほげけそうな笑顔で生活を楽しんでいますが、その笑顔がいつまでも続きますように、そして、素敵な未来へと生活がつながり、今後一人ひとりにとって人生が輝いたものへとなっていくように、福祉会として、今後の未来を創造していかなければなりません。

しかし、一方で、現在の混沌としたこの社会の中で、未来を考え、創造していくことができるのか、と頭の片隅に暗い影がいつもしかかります。ロシアによるウクライナの侵攻は、一人ひとりの命、尊厳をふみにじり、多くの人の生活を奪いました。こんなことが、この進んだ世界でおこつて

しまうことが、本当に恐ろしい。そして悲しい。そして、私達日本も、その戦争の渦へとすすんでいくのではないか、そういう危機感が募ります。

しかし、諦めてはいけません。私達にできること、命と尊厳を守るために、多くの人と連帯し、平和への道を歩みたいと思います。障害分野に携わっている私達は、障害のある人たちの立場から、様々な社会の矛盾に声をあげていかなければいけないと思います。

今年度は、このような激動の情勢の中で、始まりましたが、私達かがやけ福祉会として、2022年度から始まる5か年計画を練り上げていき、確実に実行していきたいと思えます。その中でも、なかま、ご家族の高齢化への対応が大きな課題でもあります。

そしてかがやけ福祉会の歴史も、無認可から共同作業所作り、法人化運動、そして認可から現在と時は確実に流れ、職員の世代交代の時期を迎えています。次世代の職員にかがやけ福祉会が培ってきたもの、理念、運動を引き継ぐ大切な時期でもあると考えています。

かがやけ福祉会として、地域の中で、なかま、ご家族、職員、地域の方たちがこの激動の時代に、輝いた未来にむかっていけるよう、みんなと手をつなぎ、前へと強く歩んでいきたいと思えます。2022年度もよろしく願っています。

（文責：長田 うめ子）



成人さん・還暦さん いらっしやーい！ かがやけ祝賀会

2022年4月20日（水）12時より15時
2カ所の作業所をリモートでつなぎコロナ対策で延期していた成人・還暦を祝う会を実施しました。昨年度は、かがやけ第2共同作業所の奥村颯輝さんが成人を迎え、かがやけ共同作業所の鹿野陽一さん、星利和さん、かがやけ第2共同作業所の片川敏夫さんが還暦を迎えられ、お祝いのメッセージを頂いたりすることで、お祝いされる方の照れた顔の中にも笑顔が見られていました。
行事を行うのにも制限もある昨今ではありませんが、各部屋の様子を画面を通して楽しんで会話をすることも慣れてきている様子も見られ、交流企画では、写真を見て「この人誰でしょう？」クイズを班対抗で行いました。正解がすぐ出てくる方がいる一方で、なかなか正解が出ない時は、画面の前に本人に映っていたとき、「そう言われてみれば確かにそうかも」と見比べている方も見られました。昼食はかがやけ第2共同作業所の弁当とプリンを今年も用意していただき、30年勤続の方（阿部和美さん、白倉賢一さん、戸祭智子さん、白鳥純子さん）の乾杯で始めました。食事を楽しんで後は、新人職員の紹介や作業の内容を紹介する映像を見てもらいました。なかまの笑顔や盛り上がりも多く見られました。そうは言っても、やっぱり以前のように会場に集まって、にぎやかに会話が楽しめる会を再開できる日を願わずにはいられません。

（文責：今野 信幸）

さをり織り復活！

かがやけ共同作業所には、押し入れの中に宝の山がたくさん眠っていました。4台のさをり織り機と色鮮やかで豊富な糸。20数年余りの時を経て、再びなかまの作業としてさをり織りを復活したい！との思いでした。まずは職員が技術を習得しなくては、ということ、フレンド班利用者のYさんが通われているさをり織りの教室で勉強させて頂きました。自分たちで織り機に糸を張れるまでは何度も失敗もありましたが、その度に師匠であるYさんのお母様からたくさんレクチャーを頂き、何とか稼働させることができました。現在は主にフレンド班のなかまが織作業をしています。2階のフロアで行っていると、たこやき・ポテト班のなかまたちも興味深そうに覗きに来てくれます。中には自分で椅子を持ってきて近くで作業を見ているなかまや、きれいな糸の中から色選びをしてくれるなかまも出てきて、これからのくさんのなかまたちが、このさをり織りを通して色々な関わり方ができる、関わってほしい！と感じています。思い思いになかまが選ぶ糸の配色はとても趣があり、素敵です。
織り上がった布を、Uさんのお母様がたくさん素敵なお小物やバックに縫製してくださいました。4月の所内ミニ販売会で販売するとあつという間に完売です。織りの技術がこの2か月で格段に上達したフレンド班のAさんは、「今日はさをりやりますか？」と毎日笑顔で聞いてくれます。さをり織りを通して作業所に来ることがもつと楽しくなってくれたら嬉しいなあ。

一枚の布として織りあげることではできるようになりましたがこれから商品化していくために、まだまだ課題や検討は必要です。また、縫製にはご

家族の皆様のお力が必要不可欠です！ぜひ一緒に作業所のさをり織りを復活させませんか？ご協力のほどお願いいたします。
（文責：長田 朋子）



職員全体学習会

2022年4月22日（金）

今回は、日本障害者協議会の副代表であり、JDF 障害者権利条約パラレルレポート特別委員会の委員としてその作成に関わられた菌部英夫氏を講師にお招きし、権利条約についての学習会をZoomを使用して開催しました。

今回で4回目となる権利条約の学習会となります。講演の中では、日本での権利条約に対する締約国報告と市民社会からの意見交換会の経過を話して頂きました。また、菌部講師が実際に訪問をくり返された北欧の状況を、現地の当事者に聞いた内容を説明していただくことで日本との違いについて考えさせられました。講演後に小グループで意見交換する時間を設けて、話し合った内容を講師にも報告を行い、最近のウクライナでの状況についても補足として話していただき学習できた貴重な時間となりました。

（文責：今野 信幸）



新人職員紹介

須之内彩音（すのうち あやね）さん

4月からかがやけ共同作業所のたこやき班に配属となりました須之内彩音です。

好きな食べ物は梅干とマスカットです。苦手な食べ物は納豆といちごです。

趣味はボクシングとお茶をたてるのが好きです。

まだまだ緊張していますが、なかまの皆さんや職員の方と早く打ち解けることができるようになります。

よろしくお願ひ致します。



かがやけ募金ご報告

二〇二二年三月二十三日

二〇二二年五月二十五日

【140,328円】でした。

あたたかなご支援、

誠にありがとうございます。

【編集後記】

いつもお世話になっております。かがやけ共同作業所の鳥海です。今年度もよろしくお願ひいたします。

昨年度、ご家族の方のさをり織りの工房にさをり織りを習いに行き、かがやけ共同作業所でもさをり織りの作業を開始しました。また、別のご家族の方から、ご家庭にある糸をご寄付いただき、毎日なかまと一緒にどんな色でどんな風に織ろうかと自分自身も楽しませていただいています。試作品としてポーチャやがま口、カバンなどをいくつか作って頂いたのですが、作業所のミニ販売で売り出したところ、すべて完売することができました。私もこれを機に実家に眠っていたミシンを引っ張り出して、作品作りに挑戦してみようと思います。

今後もどんどん盛り上げていきたいと思ひます。

（かがやけ共同作業所 鳥海 敦史）